

令和6年度 事業計画書

自 令和 6年 4月 1日
至 令和 7年 3月 31日

特定非営利活動法人 地球学校

I. 総括方針

令和6年度、地球学校はNPOとして24年目です。コロナ後、対面による教室やイベントが動き出した社会の変化に対応しつつ今年度も活動を継続していきます。昨年度までの3年間、「ベネッセこども基金」の助成で培った経験は、地球っ子教室の事業はもとより、NPOの組織体制にも良い効果をもたらしました。2年目の事業評価研究会、3年目のファンドレイズ研修で学んだことを活動に取り入れ実行していきます。

日本語教室では、定着しているオンライン日本語レッスンを継続的に進める一方で、アフターコロナで戻りつつある対面レッスンやチームティーチングにおけるクラスレッスンなども希望に応じて実施します。また昨年要望のあった一時帰省の学習者向け短期集中レッスンも同様です。既に対面で開催しているKANJIカフェも土曜日午後に定期開催します。日本語教師向け勉強会は、学びとともに交流の機会となるよう月1回程度の開催を計画しています。この場は、今年も日本語教室と地球っ子教室の垣根を超えた学びの場としても生かしていきます。また、学習者対象のイベントも年2回の開催をします。個人レッスンをしている学習者同士が日本語で交流できる場を、今年も対面で開催したいと考えています。

地球っ子教室は21年目を迎えました。今年度も年間を通して対面教室とオンライン教室を同時開催します。昨年度は希望者不在により開催しなかった土曜日午前のオンライン教室は今年度後半で必要に応じて設けます。「もぐらん通信」は引き続き月1回発行し、保護者に教室や子どもたちの様子を伝えます。新規の取り組みとしては、支援者間の情報交換の場を設け、地球っ子教室の理念を共有し、支援者それぞれの個性を生かしながら子ども一人一人の成長に寄り添うことができるように進めます。また、初のホームカミングデーを実施し、地球っ子教室の卒業生とのつながりをつくります。運営委員会については、今年度は休会します。

ベネッセこども基金の3年間の助成による事業「外国につながる子どもたちの日本語学習を支える教室のオンライン化事業」で作成した教材は、公式サイト及び専用サイトで公開のうえ、他団体等への広報活動を行って利用を促進するとともに、引き続き教材の充実を図ります。

多文化交流では、12月は毎年恒例の寄付月間の賛同企画を日本大通実行委員会として開催します。市民活動フェアなど対外的なイベントについては、開催場所や内容ほか主催者の決定に従い参加します。各教室の内部イベント、会員同士の交流会も例年通り開催します。

今年度は、日本語教室と地球っ子教室の両事業において、新リーダーとともに歩む年となります。NPOとして変わらない理念を貫きつつも、時代の変化に応じて新旧のメンバーが話し合いながら社会課題に取り組みます。また、ICT化のさらなる推進とともにセキュリティ対策を講じ、現状に即した法務的な整備も進めていく予定です。

II. 事業内容

1. 日本語教室に関する事業

- ・内容 日本語上達を希望する学習者への日本語指導、日本語学習支援
- ・日時 通年 約 1770 時間
- ・場所 かながわ県民センター、地球市民かながわプラザ、オンライン
- ・従事者人員 日本語教師資格を有する正会員 約 40 名
- ・受益対象者 日本語学習を希望する母語が日本語ではない学習者 約 70 名
- ・支出見込み額 2,887,400 円

2. 地球っ子教室に関する事業（外国人児童生徒への支援）

- ・内容 外国につながる子どもたちの学びを支える教室の開催
- ・日時 通年の土曜教室（35 回）・夏休み教室（5 日間）・春休み教室（2 日間）
漢字王決定戦（2 回）、支援者情報交換会、ホームカミングデー、
もぐらんワーク利用促進・教材拡充
- ・場所 かながわ県民センター、オンライン
- ・従事者人員 会員・支援者（一般・大学生） 約 40 名
- ・受益対象者 外国につながる子どもたち 約 55 名
- ・支出見込み額 1,424,000 円

3. 多文化交流に関する事業

- ・内容 内部・外部交流イベント
- ・日時 寄付月間イベント(1 回)、市民活動フェア(1 回)、会員交流会(11 回)
- ・場所 かながわ県民センター、オンライン
- ・従事者人員 担当スタッフ 6 名
- ・受益対象者 会員、各教室の学習者・子ども達、日本在住外国人、日本人 延べ 250 名
- ・支出見込み額 37,000 円